

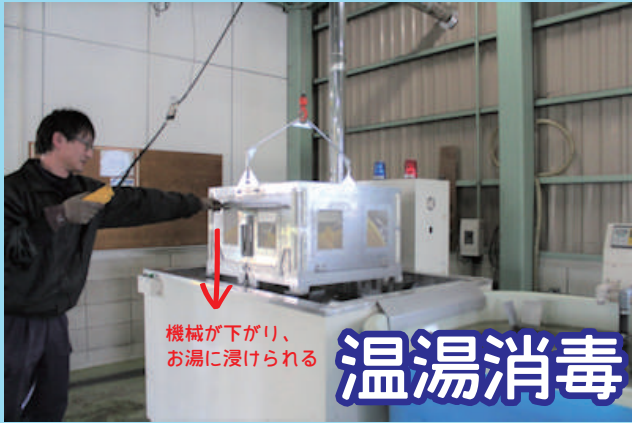


2022年 栽培日記

JA滋賀蒲生町



Vol.1 温湯消毒&脱水編



温湯消毒

草刈りや育苗センターの点検など育苗の準備が終わり、種子の準備に入ります。
播種をするためには**芽出し**が必須です。
最初に種子を60℃のお湯に10分間、水に5分間浸けて**温湯消毒**をします。

温湯消毒とは

農薬を使用せずにお湯で殺菌して種子を消毒する方法

温湯消毒のメリット

- 種子消毒の農薬を使わないので、米の減農薬栽培ができる！
- 農薬の廃液も出ないので、廃液の処理が不要！
- 農薬を使うよりも経済的！

自然にも生産者さんにも優しい技術でいいことばかりなんです！

★農薬を使わなくても農薬と同等の効果が得られるので、滋賀県の「環境こだわり米」の普及とともに、水稻種子の温湯消毒の取り組みが広がっています。

温湯消毒後は、種子を水に浸けます。

この作業は「**浸種**」といい、10℃～13℃の水槽に1週間から10日間浸けておきます。種子は見た目で見えが分からないため、品種を間違えてしまわないよう、袋に「**日本晴**」の品種ラベルを付けてしっかり管理します！



浸種



脱水

播種が終わると次は**芽出し**「**催芽**」をします。
催芽は芽を出しすぎると播種機に詰まったり芽が切れたりする原因となるので、担当者が種子の状態を確認しながらしっかり管理しています。



催芽した種子

次に、**催芽**した種子の入った袋を**遠心脱水機**で「**脱水**」します。水気をしっかり切らないと、播種の際に播きムラや機械故障の原因となります！

種子も機械も丁寧に扱いながら作業を進めています。



回転する